

提案日 2022 年 2 月 7 日

R D U F 小委員会 提案書

1. 運営区分

- 2 提言・標準等をつくるための基礎資料等の作成を目指す。

2. テーマ

研究資料・実験機器への PID 付与検討小委員会 / RDUF subcommittee on PID for research resources and instruments

3. 目的

オープンサイエンス対応を含め、研究 DX の推進には、最初からデジタル(ボーンデジタル、born-digital)な対象に加え、研究に用いた試料、史資料、機材等の有体物に関する情報もサイバー空間において参照できるようにすることが不可欠である。本小委員会では、これら有体物としての研究資源に付与する永続的識別子(PID)とこれに付随するメタデータの管理と利活用に関する調査を実施する。

4. 成果物

- 試料・史資料や実験・観測機器等の研究資源管理の効率化、及びこれらを用いた研究成果のビジビリティ向上のために必要とされるデジタル技術・運用制度に関する課題を取りまとめる。
- 研究資源への PID とメタデータの付与・管理に関する世界的動向を、制度面、技術面双方より調査し、日本語レポートとして作成する。

5. 成果のインパクト

共同研究・共同利用施設は、組織が供用する研究資源を用いる研究課題と研究成果の管理に大きな関心を持っている。ここでいう研究資源とは、大型実験・観測施設から、試料・資料・史料まで、研究時に参照・利用される有体物一般をさす。現状これらの情報は、組織独自のデータベースにより管理されることが多いが、ORCID や DOI と同様、標準かつ永続的な番号体系とメタデータにより研究資源が管理され、他の PID と関連付けられることで、組織内外での利活用が加速されると期待されている。

一方、実験・観測機器は、頻繁に更新、構成変更が生じ、また動作時の環境にも大きく影

響を受ける。また、IoT に代表される多数のセンサーネットワークからデータを収集する事例も拡大している。実体物の構成、バージョン管理に対する PID 付番の方式とその実践方法を提示することは、研究途上におけるデータ管理の効率化、及び研究過程の記録と再現性の向上の双方に寄与することが期待される。

6. 小委員会の活動計画

月次でミーティングを開催する予定である。

2022.4~6: 委員の持つバックグラウンドや課題提示による意見交換、

小委員会でのゴール設定

2022.7~11: 各種調査活動(委員毎に役割分担)

2022.12~2023.3: 取りまとめ、報告書作成

7. 初期委員

青木学聡(名古屋大学)

福田和代(海洋研究開発機構)

波羅仁(科学技術振興機構)

(2022年2月7日現在。引き続き RDUF 会員などに参加を呼びかける)

8. その他

日本 ORCID コンソーシアムと連携し、学術情報流通における PID の役割・仕様について情報交換を随時実施する。